だっこするよ

2026年　9月

社会福祉法人茂原高師保育園
北区立赤羽台保育園
園長　奥戸　昌子

日々の中に安心を・・・

朝夕に初秋の気配が感じられるようになりました。さて、9月1日は「防災の日」です。おうちでも、お子さんと「もしもの時」について話す時間を作ってみませんか。

この夏も、各地で豪雨などによる大きな災害が起きました。大切な命を守るために、いざという時にどう行動するのか、避難場所や連絡方法、備蓄品の確認など、子どもと一緒に考える「防災タイム」を持ってみませんか。日々の安心をより確かなものにしたいですね。

先月は、赤羽台西小学校の1・2年生担任の先生方をお迎えし、子どもたちの園での姿をご覧いただく機会がありました。保育者と教師が子どもの育ちを共に考え、理解し合い、顔の見える関係の中で就学へとつなげていくことは、かねてより願ってきたことですので、村松校長先生のご配慮に心から感謝申し上げます。

また、一年生担任の本田先生には、4月以降の生活や学習の様子、トラブルへの対応、教科の学びへのつながりについてお話しいただきました。地域の保育園の皆様や教育政策課の方々にもご参加いただき、実りある時間となりました。1学期に見られる子どもたちの姿やつまずき、そこへの丁寧な支援について具体的に知ることができ、大変示唆に富む内容でした。

お話の中で、「聞く力」「見通しをもつ力」の大切さ、そして「生活の自立・心の自立・関係の自立」の三つの自立が基盤になることが語られました。あわせて、「30人を1人の教師で見ていく学校生活の中では、気付いてもらえないこともあり、埋もれてしまう。困った時に助けてと言える力も大切である」と伺いました。園生活との違いを踏まえ、子どもたちが自ら考え行動し、必要な時に援助を求められる力を育てること、これからの保育において一層重要であると感じました。

また、「学校生活を楽しんでいる子どもの特徴は」という問いに、「生活リズムが整っていること、そして家庭で話をよく聞いてもらっていること」とのお話がありました。子どもの自立を支えているのは、対話だと私は感じました。

『30000万語の格差』（ダナ・サスキンド著）では、日々の言葉のやりとりが子どもの脳の発達に影響するとされています。①注意と体を子どもに向ける（Tune In）子どもが「今、何に注目しているか」に気づき寄り添うこと。②たくさん言葉を交わす（Talk More）日常を「言葉のシャワー」に変えること。③やりとりを重ねる（Take Turns）会話のキャッチボールをすることです。大人が答えを先に与えると、子どもは「正解を探す」思考になりがちです。しかし問いを投げかけて待つことで、子どもは、内側の感覚や経験と向き合い、まだ言葉にならない思いを自分の言葉で紡ごうとします。開かれていく言葉をかけたいですね。それは特別なことではなく、日常の中の小さな会話の積み重ねだと書かれています。対話の中で問いを投げかけ、ゆっくり待つことで、子どもは自分の感覚や経験と向き合い、自分で考え、言葉で表現する力を育んでいきます。

園では、わらべうた遊びを通して言葉や友達とのふれあいを大切にしています。繰り返される言葉やリズムの中で、子どもたちは自然に言葉を受け取り、やがて歌を自分のものにして遊びます。

言葉を大切にする暮らしは、そのまま子どもと向き合うことにつながっているのかもしれません。さあ、Tune In していきましょう。写真 2026 夏祭り